

令和7年9月定例会ティータイム

日時：令和7年10月10日（金）

場所：議長執務室

1 今定例会を振り返って

○ **議長**：それでは、議題1今定例会を振り返って主な出来事を紹介します。

今定例会も、代表質問10名、一般質問31名、合計41名が登壇し、活発な議論が行われました。

その中で円滑な議事進行を図るために、一問一答方式の質問時における知事・副知事を除く説明員の呼称を役職のみとすることを実施し、質問と答弁のやり取りがテンポよく行われ、議事進行が一層スムーズに行われたところです。

知事からは、認定議案を含め41の議案が提出されました。中でも市町村や関係団体などから多くの陳情が提出されていた「沖縄県宿泊税条例」は、先議案件として審議が行われ、9月18日、代表質問の冒頭にて全会一致で原案可決されました。

また、追加議案で提出された「沖縄県港湾管理条例の一部を改正する条例」は、「適切な施設運営を図るよう求める」附帯決議も提出され、10月8日の最終本会議にて全会一致で可決されました。

2 意見書・決議について

10月8日の最終本会議において与党4会派19名から提出された「自衛隊活動への県民の抗議等に対する防衛大臣の発言に関する意見書」及び自民・公明両会派25名から提出された「自衛隊及び隊員とその家族に対する差別的な風潮を改め、県民に理解と協力を求める決議」を審議いたしました。それぞれの議案に対する多くの質疑と賛成・反対それぞれの立場からの討論を通じ、自由闊達な議論が交わされ、様々な考えが示されました。

起立採決の結果、先の「意見書」は賛成少数で否決、後の「決議」は賛成多数で可

決となりました。

また、各派代表者会を開催し協議いたしました「PFOS等除去に係る対策費用の支援を求める意見書(案)」につきましては、引き続き協議をすることとし、今定例会での提案は見送られました。

3 高校等出前講座について

開かれた県議会を実現し、生徒に県議会及び議員への親近感と将来の主権者としての政治参加意識の醸成を図るため、高校等出前講座を行っております。今回は、昨年度に続き、高い関心を示し応募いただきました「那覇みらい支援学校高等部」と「那覇工業高等学校」となっております。

また、「那覇みらい支援学校高等部」の生徒の皆さんは、事前学習として9月26日に議会棟見学を行い、本会議も傍聴していただいたところです。出前講座は、地方議会が進める主権者教育の一環としても高く評価されておりますので、実施する際は、報道各社の皆様にも奮って取材いただきますよう御協力をお願いします。

紹介は、以上です。

質疑応答

○ **記者**：意見書決議について、防衛大臣の発言に関する与党が出した意見書は否決されて、可決されたのは野党の決議だけだと思うんですけど、両方紹介しているのはどのような理由ですか。

○ **議長**：様々な意見があって、議案として本会議に提出され、賛成・反対討論があって本会議で採決になったと。

○ **記者**：与野党からそれぞれ自衛隊に関するものが対立案件みたいな形で出てきて、

結局PFOSの関係の一致できる部分が置き去りにになっているんじゃないかみたいな指摘も議会内でもあったと思うのですがその辺りは議長から見ていてどうでしょうか。

○ **議長**：PFOSの件は自民党会派でも様々な意見があって、各派代表者会議でも出たように、沖縄県民140万人が関わる問題だから何とか全会一致で予算化して国との対応をしたらどうかという意見もあって、何回も議員総会で僕は何とかまとまるようにしなさいという話はしたけれど、やっぱりいろいろ最後までもめて、方向性としては全会一致でと話した。

与党の皆様方は基地から発生する問題だから、国が出すのは当たり前みたいな感じなのだけど、野党としては断言されていたらいいけど、されてないものを憶測では国に要請できないというのが自民党の言い分。ただ僕は記事項の1、2が問題だから、文案調整はお互い歩み寄ってよいのではないかとということで、個人的には、要請することは決まっていると認識しています。

○ **記者**：自衛隊の意見書と決議なのですが、結構大荒れと言うか。どのように御覧になっていましたか。

○ **議長**：僕は本会議見ていて、与党の皆様方の討論も、また野党の皆様方の討論もいろんな立場の意見が出ていて、公明党は公明党の立場からの意見が出ていて、最後は結論が出たのは議会決定だからそこに僕が口を出すことはできない。

ただ、あまりこれまでにないような決議だったなという風を感じています。それを県民がどう判断するかですね。

○ **記者**：与党も、野党もどちらも思想的な部分がある決議なのかなと。こういうの

を議会で戦わせるというのが、あまりこれまでなかったのかなと。

○ **議長**：ただ、冒頭で聞いて、与党の皆様方も自衛隊の活動、災害活動等は否定するものではないということで冒頭に入っていた。ただし、このエイサーの件についてはいかがなものかというのがあってそれが討論で出ていたのがこれまでに、あまり経験がないなど。ある意味、与党・野党、いろんな立場の考え方がある中でがっちり議論していたのかなと。両方聞いていたけど、両方の立場の意見が出ていました。

○ **記者**：傍聴者も含めて、結構不規則発言というかやじがあった。

○ **議長**：だから僕は注意しました。

○ **記者**：昨年の県議会議員選挙以降から傍聴席で発言されている方は基本的に与党の応援をしている方だと印象を受けていますけど、増えているような気がします。

○ **議長**：最終本会議が一番多かったかなと思う。見ていてもね。この1年を振り返っては、傍聴席から議会が止まるような発言はあまりないと思う、僕が議長になってからは、普天間の問題以外で対立議案はあまりないからね。

○ **記者**：宿泊税についてなんですけど、今回、全会一致で可決ということで導入されることが決まったと思うのですが、本島の方より離島の方のほうが税金に対しては不安視している点もあるのかなと思うのですが、今現在の県の施策を拡大して、離島の方の負担を減らすという方針でやると思いますが、改めて議長から、離島の方がこの宿泊税に対して観光目的じゃないのに支払わないといけないという不安を解消するためにやっていきたいこと、また、将来的に宿泊税がどういう姿、あり方であ

るべきものだという意見があればお聞かせください。

○ **議長**：御承知のとおり、この件は途中から知事の議案が変わって取り下げて、また再度協議となった経緯があるけれども特に恩納村とかホテルの多いところは一日も早く取り扱っていただきたい、できるなら令和8年度の4月1日からという要望もあったけれども、説明を聞いたら4月1日は無理だと。どうしても令和8年の後半になるだろうという事もあって離島の方々が陳情要請にも来ていました。

離島の子供たちが本島に来て、東京に行くときにも支払いが生じるのですかとか、島嶼県沖縄と言いながら離島が不利益を被るという陳情・要請も来ていましたので、そのことも含めて委員会できちんと審議をして、今の流れでは県が提案した形になると思うけど、それ以外で離島振興に対する予算も知事は考えているとあったので与野党が一致したと思います。そういった意味では旅費の問題とか、宿泊の問題とか別の形の補助金はいろいろ考えているという話がありました。特に子供たちがインターハイや国体に行く時も別枠で不利益がないような形でやりたいという話も出ていましたので、一般質問、代表質問でも、いろんな委員会でも質問が出ていましたので予算の組み方が12月ごろに出てくるのかなと。ただ一日も早く議会で取り扱ったというのは良いことだと思う。なぜかと言うと、県より先に市町村がスタートすると、それこそボタンの掛け違いになってくる。

○ **記者**：PFOSの件で伺いたいのですが、全会一致が望ましいということで与野党で文言調整する必要があると思うのですが、基地由来の蓋然性が高いというところで対立があり与野党がその文言をうまくお互いで納得できるような文面にしていって、そういう調整を議長が仲介、仲裁していくようなそういったお考えはありますか。

○ **議長**：もう文案調整も一点限りだったのです。要するに一点だけが問題になって

いて、「米軍基地由来の蓋然性等が」を入れてくれというのが与党案。野党はこれを抜いたもので、要するにそうであるという証拠があればいいが。そういったちゃんとした根拠があれば、直接要請できると。でも、そうでないので、自民党は合意できないという、ここでもめたよね。その証拠に企業局長は前回答弁で、フィルター替えるのに13億か16億と言っているけれども、フィルターの交換で13億かからない。本会議での企業局の答弁は、今までのトータル4、5年の事業の話をしているけど、16億円でフィルターを替えるという誤解があるのだけど、僕の記憶では2、3億で5億まではいかなかったと思う。これはやらないといけない。基本的に。ただこれを、基地から発生しているPFOS関係だから国がやるのは当たり前だという言い方でいいのか、それとも、その可能性は確かにあるけれどもそれも調査しながら、県民に影響を与える数値が上がっているのは事実だからなんとか対策はしないとけないだろうとって企業局が値段上げたら県民に不利益を与えるんじゃないのと、水道料金が上がるんじゃないのという不安視もあるし、PFOSのフィルター関係なく、来年の4月から料金上がるんです。来年の4月から125円上がることは決まっている。それプラスこのフィルターの予算を企業局が出したとしたら0.2~0.5円上げないとけないという答弁でした。

だから、そうじゃないだろうということで、これまで同様に防衛の予算でできないかと。もう少し掘り下げると、前回は環境整備法第8条に基づく民生安定施設の助成事業という予算を使った。今回、維持管理にはこれは使えないとなっているから国は出さないと。ただ、方法としては9条「特定防衛施設周辺整備調整交付金」は使えるというのがある。詳しいことはわからないけども、前回は8条で使っているので、今回はできませんという説明を受けている。ただ基地から出てくるから国が当たり前やるべきだという意見に対する、自民党の反発があった。そうじゃないと一緒に行動できませんという理由で意見が分かれた。

ただし、そうは言わないでこれが採決になったら当然国は耳を傾けないだろうから、

沖縄県議会として全会一致で取り組んで、県民に不利益がないほうが良いというのは全会派の意見ですので、再度きちんとやろうという事で、やる方向には進めていきます。

いろんな意見があったというのは事実です。

○ **記者**：10月15日から新聞週間というのがありまして、新聞に対しての意見・要望など議長から思うところがあったら。

○ **議長**：僕は新聞をほとんど見えています。切り抜きして今までは一般質問とかに使用したり。一番思うのは、子供たちや高齢者の意見がよく出てきて、生の声が出てくるのはいいなと思っている。記者席、記者メモも記者のほうから見た感じがストレートに出てくるのもなかなか面白い。僕も過去に新聞に出たことがあるのだけど、嬉しくて。44年前の滋賀国体に出た時の記事が、議員になった時に再度出たことがある。その時々記録として素晴らしいと思う。

○ **記者**：国体は何の競技で出られたんですか。

○ **議長**：レスリング。その時はホテルがなくて民泊でした。

滋賀県の甲賀町というところに、当時は琵琶湖国体と言っていたんだけど、今年も案内があって議長として行ったら、44年前の民泊したお家に行ったらおじいちゃん、おばあちゃんが元気だったし喜んでくれた。

僕が、沖縄県のレスリングで入賞第1号です。その時に知事から優秀競技者賞というのを貰ったのが3名だけ。その時にレスリングマットを新品を買ってもらいました。

沖縄国体の前だったから。そういう意味では子供たちの活躍を新報もタイムスも全ての競技を載せてくれて。

沖縄出身だけど沖縄代表で出ていない子もいる。でもそれもきれいに載せていた。

現場で取材してよく載せているなど評価した。

○ **記者**：改善してほしい部分とかは。

○ **議長**：みんな各々の新聞社の個性があって、離島は離島に集中した新聞の作り方があり、本島は本島の作り方、また県外のマスコミは県外の作り方と、それぞれ個性があるので改善なんてとんでもないです。今のままでいいと思います。

以上